

三重県立熊野少年自然の家事業計画書の要旨

申請者名	有限会社 熊野市観光公社
管理運営方針に関する事項	<p>◆安全・安心・満足度 100%の施設を目指して 熊野市の全面的な支援のもと安全・安心・満足度 100%の施設を目指して、地域資源の活用や地域連携等の充実を重視しつつ、「三重県立熊野少年自然の家条例」等の内容を踏まえて、次の基本方針により管理運営を行います。</p> <p>1 安全・快適で安心な施設管理 (1)施設の安全管理と危機管理を徹底します。</p> <p>2 利用者の満足度を重視した利用者本位の管理運営 (1)広く情報提供に努めるとともに利用者の声を管理運営に反映します。 (2)利用者の立場に十分配慮した管理運営を行います。 (3)職員の質の向上を図ることを通じて利用者サービスの向上に努めます。</p> <p>3 地域や施設の特性等を最大限に活かした効率的かつ効果的な管理運営 (1)施設の設置目的達成と機能的価値を高める運営を行います。 (2)優れた地域資源を最大限に活かした効果的な管理運営を行います。 (3)経費の節減とサービス向上の両立に努め、安定かつ効率的な管理運営を行います。</p> <p>4 利用者の拡大と人づくりを通じた地域振興への貢献 (1)観光公社としての特性を活かして利用者を拡大します。 (2)少年の健全育成等を通じた心豊かな社会づくりと地域の振興に貢献します。</p> <p>◆独自の成果目標の設定と利用者満足度や質の高い管理運営を推進します</p> <p>1 独自の成果目標を設定し、利用者に満足される効果的な管理運営を行います。 (1)延宿泊者数 15,000 人を独自の目標とします。 (2)利用者満足度 100%を目指すとともに職員への利用者満足度 100%を目標とします。</p> <p>2 常に業務内容を評価・改善し、質の高い管理運営を行います (1)PDCA サイクルに基づく評価・改善を推進します。 (2)職員の目標管理を推進します。</p> <p>◆「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を協創により進めます</p> <p>1 三重県の施策実現への貢献について 県民力による協創の三重づくりの一員として三重県の戦略計画である「みえ県民力ビジョン第二次行動計画」の施策推進に貢献し、「幸福実感日本一」の実現を目指します。 また、三重の教育宣言の中心理念の1つである「子どもたちは毎日が未来への分岐点」であるという認識を十分に持ちつつ、少年自然の家における体験活動が子どもたちの明るい未来への一助となるよう、「三重県教育ビジョン」の施策推進と整合性を図りながら取り組みを進めていきます。</p>
管理業務に関する事項	<p>1 安全・安心、そして快適性を追求します。 利用者が安全、安心、そして快適に施設を利用できるよう施設管理に関連した法令や仕様書等で定められた管理基準の遵守し、良好な維持管理に努めます。</p> <p>2 利用者の安全を最優先し、徹底した安全点検で“事故ゼロ”を実現します。 施設及び設備機器等の保守点検や危険箇所の早期発見を目的とした施設内巡視など徹底した安全点検を実施して、利用者の安全確保、事故防止に努めます。</p> <p>3 火災予防や自然災害等の危機管理対策を徹底します。 火災予防や地震被害予防対策を進めるとともに、災害等が発生した場合には、災害応急対策マニュアルに基づき利用者の安全確保をはじめとした危機管理対応を確実に実行します。</p> <p>4 個人情報保護を徹底します。 個人情報保護に対する社会的要請を十分に認識し、個人の人格尊重の理念のもとに、個人情報の適正な取り扱いを行います。</p>

<p>運營業務に関する事項</p>	<p>1 6つのシリーズによる魅力ある主催事業</p> <p>地域の各種団体等と連携しながら、施設の機能や豊かな自然、歴史・文化、人材など地域資源を最大限に活用し、「協創」の精神による「県民力でめざす幸福実感日本一」の実現を図るため、三重県民力ビジョン第二次行動計画に掲げている人と人との「絆」や人と地域との「つながり」など、「つながりの豊かさ」を重視した事業の展開を図ります。</p> <p>そこで、以下の6つのシリーズによる多様で魅力ある研修・体験プログラムを提案します。その中で、基本とする年間20以上の主催事業を実施します。</p> <p>①熊野「ネイチャー・ウォッチング！」シリーズ、②熊野「わく・ドキッ！」シリーズ、③熊野「アカデミック！」シリーズ、④熊野「フードカルチャー！」シリーズ、⑤熊野「クリエイティング！」シリーズ、⑥熊野「グループアクション！」シリーズ</p> <p>さらに、熊野市観光公社企画事業である「とっておきの熊野」シリーズにおける25の体験プログラムを組み合わせた研修活動も行います。</p> <p>2 利用者サービスの向上</p> <p>意見箱の設置や利用者の満足度調査等により利用者の評価、意見・要望を把握した上で、PDCAサイクルによる業務の評価・改善を行い、利用者サービスの向上に努めます。</p> <p>(1)職員の利用者に対する接遇の充実を徹底して行います。</p> <p>(2)施設全体にわたって安全・安心そして快適な環境の維持・向上に努め、利用者にとって居心地のよい施設づくりを推進します。</p> <p>3 利用促進の実施</p> <p>県内外に広く利用促進のための営業活動やチラシの配布を行うとともに、会員登録制度の充実によりリピーターを増やす取り組みを行います。</p> <p>また、閑散期対策として「防災を絡めたサバイバルキャンプ」や「企業研修」での活用など、季節に関係なく実施できる宿泊を伴う主催事業の充実を図ります。</p>																																											
<p>収支計画に関する事項</p>	<p>1 収支計画の基本方針</p> <p>収支計画にあたっては、利用者の増大による収入増を図りながら経費も投入するなど効率性を重視するとともに、主催事業等の充実やサービス向上など、施設設置目的の達成と施設の機能的価値を高めることに対しては十分な経費を投入することとし、「必要なものには予算を使い、ムダは省く」ことを基本とします。</p> <p>2 収入について</p> <p>年間宿泊者数15,000人を独自の目標としています。その目標達成に向け利用者拡大を図ることとし、H30年度13,500人、H31年度13,900人、H32年度14,300人、H33年度14,600人、H34年度15,000人を基礎として、宿泊室利用料金収入及び体育館・研修室の施設利用料金収入を積算しています。</p>																																											
<p>組織及び人員に関する事項</p>	<p>職員は、正規職員を4人、臨時職員を4人、計8人の職員を配置します。</p> <p>正規職員4人は、所長1人、指導系職員2人、事務系職員1人です。臨時職員4人は、指導系職員1人、事務系職員1人、夜間勤務員2人です。</p> <p>常勤指導系職員1人は、教員免許を有する者で、学校教育、又は社会教育の経験を有する職員とします。常勤指導系職員1人及び非常勤指導系職員は、自然観察指導員、自然体験活動指導員の資格を有する職員とします。</p>																																											
<p>収支計画書(千円)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入合計</td> <td>48,770</td> <td>49,392</td> <td>50,013</td> <td>50,137</td> <td>50,303</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内訳</td> <td>指定管理料</td> <td>42,267</td> <td>42,699</td> <td>43,129</td> <td>43,129</td> <td>43,129</td> <td></td> </tr> <tr> <td>利用料金収入</td> <td>6,223</td> <td>6,403</td> <td>6,584</td> <td>6,708</td> <td>6,874</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主催事業参加費</td> <td>280</td> <td>290</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支出合計</td> <td>48,770</td> <td>49,392</td> <td>50,013</td> <td>50,137</td> <td>50,303</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	備考	収入合計	48,770	49,392	50,013	50,137	50,303		内訳	指定管理料	42,267	42,699	43,129	43,129	43,129		利用料金収入	6,223	6,403	6,584	6,708	6,874		主催事業参加費	280	290	300	300	300		支出合計	48,770	49,392	50,013	50,137	50,303	
年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	備考																																						
収入合計	48,770	49,392	50,013	50,137	50,303																																							
内訳	指定管理料	42,267	42,699	43,129	43,129	43,129																																						
	利用料金収入	6,223	6,403	6,584	6,708	6,874																																						
	主催事業参加費	280	290	300	300	300																																						
支出合計	48,770	49,392	50,013	50,137	50,303																																							